

平成18年度実務担当者会報告

平成18年度実務担当者会は、「大学図書館の地域開放・地域連携」をテーマとして、11月21日（火）午後1時30分から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（アルファ）館会議室において開催され、18館21名の参加がありました。

東京農工大学小金井図書館の矢崎省三氏を講師にお迎えした講演会の後、グループディスカッションを行いました。矢崎氏にご寄稿いただいた講演の要旨と、グループディスカッションの概要を以下に掲載いたします。

閉会后、慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンターの見学会が行われました。

講演： 地域に活かす大学の図書館

東京農工大学小金井図書館

矢崎 省 三

東京農工大学は府中市に農学部（府中キャンパス）、小金井市に工学部（小金井キャンパス）があり、図書館も同規模のものがそれぞれに一館ずつあります。本日は農工大図書館（小金井図書館）が行ってきた地域連携の例を紹介させていただきます。

まず、農工大図書館の地域との主な関わりをあげると次のようになります。

1999年・三多摩地域資料研究会定例会「情報管理者図書館員のためのインターネ

ット入門」

・子供インターネット教室 第1回

（～第8回2006年 継続中）

・学園祭一般開放：インターネット講習（～2001年）

2000年・高校生インターネット塾

2001年・三多摩地域資料研究会定例会「東京農工大学附属図書館VR浮世絵展示室について」

2002年・学園祭一般開放：インターネットフロアを使ったインターネットカフェ

2005年・小金井市立図書館との相互協力協定
と記念講演会

2006年・「世界恐竜博 2006」を最大限に楽しむためのセミナー（NHK, 小金井市と共催）

- ・子供インターネット教室 2006「上條景介・白石昌則“ ブログってなに？”」
- ・図書館員キャリア向上研修会

2005年以前の内容に関しては、参考文献としてお配りした拙著で本日の演題と同じ「地域に活かす大学の図書館」(“多摩のあゆみ”120号2005.11)^{注)}を参考にさせていただくとして、ここではこの時課題となっていた小金井市立図書館との相互協力協定について紹介します。

大学図書館が公共図書館と相互協力するというとき、それは地域公開＝貢献的意味合いが強くなり、どちらかといえば大学図書館の一方的奉仕になるのではと思え、様々な事態を想定して心配していた。しかし、市立図書館と協議する中で大きな誤解だったことが分かった。大学生は公共図書館に甚大な迷惑をかけていたのだ。卒業する学生の未返却本督促は、帰省先(保護者)などの情報を持たない公共図書館がいかに大変であるか、大学図書館員として容易に想像がつく。どうやら大学図書館の一方的奉仕ではなさそう。

とはいえ公共図書館との連携は次のことが危惧としてあげられる。

曰く 市民がたくさん押し寄せる

曰く 子連れの人や困った人が来るのでは

曰く カウンターでトラブルがあるのでは

曰く 騒がしくならないか。学生や研究者に迷惑にならないか

曰く 貸出が多いと学生用の本が足りなくなるのでは

曰く 督促や弁償は

曰く 電子ジャーナルの利用者が来たら

曰く PC やデータベースを勝手に使ってしまうのでは

何よりも余計な仕事が増えてしまう

これらの危惧に対して議論を重ね、大学図書館でしかできないサービスを提供することにした。すなわち「公共図書館にある本は公共図書館を利用してもらい、その代わりに、大学図書館にしかない資料を積極的に提供する」だった。この考えに則り以下3点で協定を結ぶことにした。

協定主旨(市報, 大学広報, プレスリリース)

1. 小金井市立図書館は公立図書館として広範な資料を、東京農工大学図書館は専門書を収集し、お互いに協力する
2. イベント協力・共催
3. 大学夏休み休暇中、高校生の受験勉強環境支援

1. に関しては

大学は専門書しか購入しない

学生へは、一般的な本の希望は市立図書館を利用してもらう(学生は大学だけではなく、在住・在学の公共図書館も利用できる)

市民へは、市立図書館にある資料は市立図書館で利用してもらい、市立にない専門書を積極的に利用してもらう

とし、市民へは資料の特殊性を説明した。実際、借りる人はそれほど多くない。

2. は

子どもインターネット教室 2006 の共催(小金井市立図書館 OPAC の使い方指導等)

「世界恐竜博 2006」を最大限に楽しむためのセミナー共催

小金井市図書館協議会委員

などを行った。

3. は市立図書館中央館には席が8つしかないことを考慮したものだが、受験生への効果は大きかった。

なお、実行に当たっては仕事量をできるだけ増やさないことを目標とし、そのための方策として、当面大学の利用者カード5枚を市立図書館に預けることにした。農工大図書館の資料を借りたい市民は、市立図書館でカードを借りれば入館・貸出は学生と同じ扱いとなる。ただし、貸出はあくまでも市立図書館に対してとなり、督促・弁償などは市立図書館が行う。本の借り出し・返却は本人が直接するので館間貸出の煩わしさがなくなる。利用者も利用しやすい。なお、閲覧だけならばカードの必要はなく、その都度簡単な手続きで利用できる。

5枚の貸出カードは利用状況によって増やすことにしていたが今のところ要望はない。

協定から約1年たち当初の物珍しさが一段落し、利用者は農工大の資料を使いたい人に落ち着いてきた感がある。危惧された件もほとんどなかった。しかし、この危惧のようなことは公

共図書館では日常茶飯事で、大学図書館がいつまでも聖域であるはずもなく、覚悟は必要ではないだろうか。

2005年2月19日、市長・学長出席のもと相互協力協定締結式と記念講演会を開催した。ちょうど話題になっていた「生協の白石さん」こと白石昌則氏を講師に招いたこともあり、会場を変更せざるを得ないほどの参加者があり、新聞で大きく取り上げられた。

以上が東京農工大学小金井図書館の地域協力の例ですが、これはあくまでも農工大図書館の場合で、他の大学図書館に当てはまるものではありません。各大学はそれぞれ自館にあった工夫が必要だと思います。

注)

<http://www.biblio.tuat.ac.jp/yazaki/tamanoayumi.pdf>

基調講演



グループディスカッション



グループディスカッション報告

参加者に事前にテーマに関する興味のあるトピックについてアンケート調査を行い、それを参考に2つのグループに分けました。

どちらのグループも、自己紹介と各自の所属館の事例紹介の後、情報交換を行うという形で進められました。

共通の関心事項は、次のようなことでした。

- ・多くの館が何らかの形で開放している
- ・開放の形態，利用手続はさまざまである
 - 提供サービスの内容
 - 利用対象（身分等）の限定の有無
 - サービスに応じた課金の有無
 - 有効期間，更新時期
- ・大学当局が開放に積極的でない場合がある
- ・セキュリティを心配する声が多い

セキュリティについては，利用者の安全を考慮した防犯・警備上の見地から，事前連絡を必須とし，警備室を通してもらうという対応例が紹介されました。また，ネットワーク環境の利用も検討しなければならない課題として話題に上がりました。対応は館によって異なり，自由に利用，希望のある都度ゲストアカウントで利用，図書館利用登録（有料）時のアカウント発行などの例がありました。

そのほか，市民に大学図書館を紹介する広報手段として，個別に案内を送付する，地域との協力体制をつくり市報を活用する，新聞社へ働きかけるといった活動が紹介されました。

利用者への開放とは異なりますが，中学生の職業体験（インターンシップ）の場として提供している加盟館もありました。

地域公開をする上でのポイントは何かとい

う点については，蔵書構成など公共図書館との違いを明確にすることが必要，自館の資料をデジタル化して Web で公開することも地域公開の一つである，また農工大の報告にあったように，イベントを通じての地域公開も積極的に考えられてよいのではないか，という意見がありました。

先行例の状況や共通する問題についてだけでなく，意外な対応例を聞いて自館への適用の可能性を考えるなど，今後の活動に活かすという目的のもと，活気ある意見交換が行われました。

（事務局より）

後日参加者から寄せられた感想では，テーマ，グループディスカッションの設定ともに概ね好評でした。「事前のアンケート結果から，各館の取り組み状況の概要や各館を取り巻く状況の違いをあらかじめ把握してから会に臨めたこともよかった」という声もいただきました。「講演・グループディスカッションとも充実していたが，時間が短かく，もっと他校の状況を知りたい，話したいというところで終わってしまった」というご意見もありました。次年度の開催に向けて参考にさせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

【事務局報告】

平成 18 年度連絡館会議

第 1 回 5 月 22 日（火）10:30 -12:00

第 2 回 11 月 21 日（火）10:30 -12:00

いずれも慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（アルファ）館会議室にて開催されました。

議事録はメーリングリストにより加盟館に送付済みです。次回は平成 19（2007）年 3 月の開催を予定しています。

神奈川県内大学図書館相互協力協議会

メーリングリスト アドレス

一般連絡用：kulc@kulc.sakura.ne.jp

連絡館用：kulc-r@kulc.sakura.ne.jp

各メーリングリストへは，予め登録されたメールアドレスからのみ送信ができます。

名簿記載事項，メーリングリスト登録アドレスの変更は事務局までご連絡ください。